

太田市自分ごと化会議 2020

第4回 議事概要

日時	2021年2月20日(土) 13時30分～16時30分
場所	オンライン会議
コーディネーター	厚木市 こども政策アドバイザー 小瀬村寿美子 構想日本 プロジェクトマネージャー 田中俊

凡例) コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要

■前回までの整理

コ 新型コロナ禍の影響で緊急事態宣言の再発令、群馬県内でも外出自粛要請などが重なり、前回から3ヶ月ほど時間が経ってしまった。第三回の会議までで、論点も概ね出揃っているように思うので、今日は、その論点を振り返りつつ課題を整理し、どうしたら解決できるのかという集約をしていきたい。また、まだ議論していない論点が出てくれば、適宜拾い上げたいと思う。

コ まずは、前回までに議論された主な論点についてあらためて共有したい。

(仕事に関する価値観のごちゃまぜ化)

- ・ 昔は、仕事に対する価値観が、男と女、仕事と余暇などのように区別して考えることが多かった。
- ・ 今は、男女の垣根なく働ける環境や、日々の生活で仕事と余暇を同時に楽しむといったように区別をなくして「ごちゃまぜ」となった状態の方が理想に近いのではないか。

(子育てと仕事の両立)

- ・ 男女の垣根なく働ける環境が理想に近いと認識しつつも、「子育て」となると女性に求められる役割が依然として多い実態があり、子育てと仕事の両立という点で女性にしわ寄せが行っている。
- ・ この実情は各家庭での個別の問題というよりは、「夫が子供の送り迎えに行くと周囲の視線が気になる」という発言があったように、周囲の雰囲気から醸し出されているものであり、街全体の課題といえる。
- ・ 行政の子育て支援については、比較的ポジティブな意見が多かった。

(家庭や職場以外でのちょっとした相談のできる環境)

- ・ 誰しものが、働くうえで大なり小なり悩みを抱えている。今はメンタルヘルスで職場の相談体制が整っていたり、行政の相談窓口もあるが、利用するのは心理的にハードルが高い。
- ・ 身近な人や程よい距離感の人と話しているうちに自分の中で悩みが整理されたり、発散していくという方が実態に近い。
- ・ 悩み相談という形でなくとも、ちょっとした立ち話などからも自分の中に気づきがあったりすることや、近すぎない関係の人との会話の方が後腐れなく話せたりすることもある。
- ・ 家庭や職場以外のコミュニティを日頃から持つておくと、ちょっとした相談がしやすい。

コ 「働きやすさ」というと、職場での課題や各家庭内での創意工夫が基本となるように思われるが、これまでの議論からは、働くことに関わる「周囲の環境を整えること」の重要性が見えてきたように思う。

子育てと仕事の両立にしても、家庭での役割分担が第一にありつつも周りの空気感が重要だし、仕事上での悩みを抱えたときにも家庭や職場以外の人間関係に助けられたりするし、「働きやすさ」ということを考えたときに、職場や家庭内で完結させる、あるいはいざというときの行政サービスだけではなく、その中間となるような部分の環境をいかに整えていくかということが、これまでの議論での共通した部分だったといえる。

■多様な関係性の作り方について

(キーワード：サードプレイス/緩やかなつながり/目的を果たすためではない言葉での声かけ)

コ 個人や家庭というプライベートな場だったり、職場や行政というパブリックな場だけでなく、その中間的な存在となる場の重要性がこれまでの共通した話題だった。

これは、いわゆるサードプレイス(第3の居場所)といわれる場のように思うが、そういう「緩やかなつながり」の場をどうしたら作れるのかということについて

て、皆さんの考えをお聞きしたい。

委 好きな事の集まりだったり、同じ目的をもった集まりというのがまずあって、ついでに相談できたりするということが実態に近いのではないか。楽しさがないとつながりを持つことにモチベーションを保てない。

委 私は大学生なので、異業種交流などないが、緩いつながりということであれば大学のサークルなどはその一例のように思う。社会人になるとこういうサークル活動があまりないように感じる。

委 私も商工会議所の青年部というコミュニティに入っていて、異業種交流しているが、コーディネーターが整理してくれたように、そういう場での些細なコミュニケーションで何気なく悩みが整理されていくということがあると思う。一方で、そういうコミュニティに自分から入っていくことが苦手な人がある。そういう人をどう巻き込めるかということを考えられるといいのだが。

コ 行政などもよく相談窓口を設けているが、そこに相談に来られる人はいい。アウトリーチとよく言うが、そこに相談に来られない人にどうアプローチできるかが課題だったりする。

委 「目的を果たすためではない言葉での声がけ」がいいように思う。

私の家の周りには一人暮らしの高齢者が多くて、一人で大丈夫かなと思うこともあるが、ストレートに「大丈夫ですか？」と声をかけるのは失礼だと思っている。コストコに行くと大量に入ったドーナツを買うことがあるが、それを一人では食べきれないので、ご近所のそのお年寄りに配ったりする。そうすると、それをきっかけに話をするし、とても喜んでくれて「この前はご馳走さま」といってお礼のお菓子を届けに来てくれたりする。結果的に見守りにもつながる。

目的を果たすための言葉ではなくて、結果的に目的を果たせるような緩やかな声掛けをした方が人は受け入れてくれるのではないか。

私自身、広告の仕事をしているが、押しつけがましくないコピーというか、気づいたらこの商品を買っていたというコピーの方が好き。そういう感覚に近い。

コ 人と人とのつながりを作るためにはどうしたらよいかということを考える中で、皆さんの話を聞いていると、趣味や好きなものでのつながりだと、そのつながりがモチベーションになったりするが、一方で、やらされ感があったりするつながりだと、そのつながりに煩わしさを覚えたりもする。モチベーションを感じるつながりをどう活用できるかがポイントになりそうだ。

コ そして、自分からつながりを持つとしない人もいる。そういう人とこちらからつながりを持つとする場合は、「目的を果たすためではない言葉での声かけ」が有効に働きそうだ。

(キーワード：自分ごと化会議)

委 つながりということである、この自分ごと化会議自体がつながりの場と考えられるのではないか。

委 PTA とか自治会とか商工会とか同じ目的をもって、長期的に関係性がつづくコミュニティでは、関係性が深くなるにつれて逆に相談できなくなるということもある。

 こういう自分ごと化会議のように、無作為で集まった見ず知らずの人と短期的に集まって話せる場の方が話しやすい内容もある。

委 私自身あまり周りとの関係性を持つと思う人間ではない。仕事を定年になってから、コミュニケーションは妻ととるくらいで、家にこもりがち。今回この会議に参加しているのは、個別に通知が来て、妻からもたまには外に出た方がいいといわれ、4回くらいならいいかと思った。

委 この会議自体をもっと周知したほうがいいのではないか。働きやすさということとは関係ないかもしれないが、ここに集まっている人以外にも、自分の住んでいる街のことについて考えている人はいると思う。

委 私もこの会議に参加して、毎日忙しくて、何となく過ごしている生活を見直すいいきっかけになったように思う。

(キーワード：人のつながりと情報)

委 他の街から太田市に来た人もコミュニティを持っていないので、孤立しがち。

委 子育てする中で、地元が太田市のママさんは先輩ママや友人など自分のコミュニティから情報を得ているが、他の街から来たママさんは積極的に行政の情報を取りに行っていたように思う。

委 他の街から来た人に限らず、アパートに暮らしの人とか、ご近所づきあいがいない人は、行政からの情報を頼りにしている部分は確かにある。自分に情報が取りや

すい環境というのも大事ではないか。

コ 行政は、情報の出し方としてアウトリーチというか、ターゲットを決めて個別に情報発信しているような取組はあるか。

市 ツイッターやインスタグラムなど市の SNS アカウントを通じて、そのフォロワーにプッシュで通知するということはある。広報紙がアプリで読める「マチイロ」も個別にテーマ設定ができ、テーマに沿った情報が見やすくなっているかと思う。

コ 行政の情報など、その時はスルーしても必要な時に思い出せるといいのだが。

委 近所に新しくできた歯科医院の情報など、自分にとって今すぐ必要でない情報でもとりあえず友人に LINE で送っておくことがある。友人に話をしておくことで、後でその情報が自分に必要になった時に、その人が自分に情報を返してくれる。

委 同じ情報でも行政から発信される情報と知り合いから聞く情報でも受け取り方が違う。そういう意味でも日頃からつながりを持っておくことは有効だと改めて思う。人のつながりが情報にもつながる。

■まとめ

- ・ 子育てと仕事の両立にしても、家庭での役割分担が第一にありつつも周りの空気感が重要だし、仕事上での悩みを抱えたときにも家庭や職場以外の人間関係に助けられたりする。「働きやすさ」ということを考えたときに、職場や家庭内で完結させる、あるいはいざというときの行政サービスだけではなく、その中間となるような部分の環境をいかに整えていくかが重要。
- ・ 「緩やかなつながりの場」を持てるといいが、やらされ感があったり、押しつけがましきがあると煩わしい。趣味や好きなことでのつながりなど、自分のモチベーションにつながる楽しいつながりの場にたまに真面目なことを混ぜられるとよい。
- ・ 自分からそういう場を持とうとしない人もいる。そういう人とのつながりの持ち方として、「目的を果たすためではない言葉での声かけ」ができるとよい。
- ・ 自分ごと化会議自体も緩やかなつながりの場の一つ。いままで接点がなかった色々な人がいるし、後腐れもない。行政職員ともフラットに話せる。この会議自体をもっと市民に周知できるとよい。